



そり遊びを楽しむ子どもたち



伊達福男・福女競争も盛り上がりました

第七戦伊達雪まつり —冬の陣—

2月7日、総合公園だて歴史の杜で「第七戦伊達雪まつり—冬の陣—」が開催されました。

このまつりの名物になっている「特設すべり台」や「雪だまストラックアウト」のコーナーは、今年も多くの子もたちでにぎわいをみせていたほか、「チャンバラKASSEN」では、子どもたちが優勝を目指して、白熱した戦いを繰り広げました。

また、「だてまる君の謎解き宝探し」では、景品の獲得を目指し、クイズの答えを考えながら、宝のありかを一生懸命に探す姿がみられるなど、伊達市の冬のイベントを満喫していました。

「鬼は外！福は内！」

2月1日、節分の日に先立ち、虹の橋保育園で節分集会が開かれました。

手作りの鬼のお面や衣装を身につけた子どもたちが、童謡「まめまきのうた」を合唱した後に、「鬼のパンツ」の音楽に合わせてフォークダンスを踊っていると赤鬼と青鬼が登場。

驚いて泣き出してしまう子もいましたが、ボールをぶつけて鬼を退治すると、先生からお菓子をもらい、嬉しそうな表情を浮かべていました。



大きな掛け声で鬼を退治する子どもたち

参加者からはたくさんの意見が出されました



だてトーク —市民の皆さんの思い—

2月1日から、「未来を語るだてトーク」が始まりました。

これは、20～40歳代で多様な分野で活躍している方に集まっていただき、日ごろ感じていることをありのままに伝えてもらい市政に生かしたいとのことから始めたもので、この場で話し合った内容は、第七次伊達市総合計画の策定にあたっての糧にもなります。参加者からは「次があったらまた参加したい」と積極的な様子もみられました。

ジオ食材を活用した薬膳料理教室

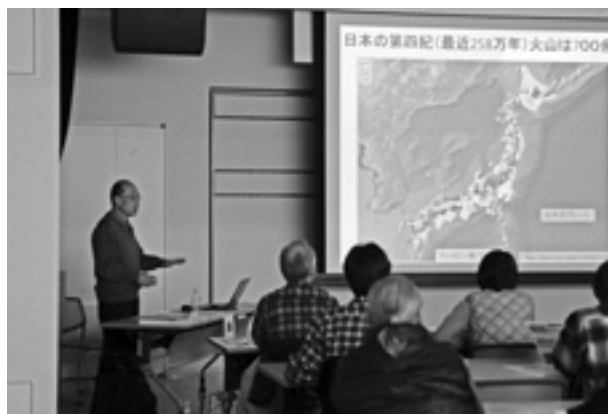
2月17日、保健センターで「ジオ食材を活用した薬膳料理教室」が開催され、7人が参加しました。

これは、洞爺湖有珠山ジオパークに関連する胆振西部4市町にお住まいの方に、ジオパークの理解を深めてもらうために開催されたもので、講師に国際中医薬膳師の野村洋子さんを招き、地元の食材を使った薬膳料理を紹介。「薬膳料理には、体調を整える効果がある。そのためには、食材のもつ働きを知ることが重要」との説明を受けていました。



調理の様子

講演会の様子



防災講演会 —知ることで災害は軽減できる—

2月4日、「日本列島の火山活動は活発化しているか?」と題して、防災講演会が開催されました。

市では、毎年噴火災害の防災啓発活動に取り組まれている北海道大学名誉教授の宇井忠英さんを講師に迎え、噴火災害の防災をテーマに講演会を行っています。宇井名誉教授は噴火の特徴を説明するとともに、「住民・行政・科学者・マスメディアが連携し、情報共有することが災害軽減の鍵」とし、参加者は熱心に耳を傾けていました。



第26回おおたき国際スキーマラソン

2月14日、大滝区大成町の大滝総合運動公園で第26回おおたき国際スキーマラソンが開催され、356名が参加しました。

今年は開始以来初めての雨の中での競技になり残念ながら263名が参加を見送りましたが、参加した方たちは、それぞれエントリーしたコースで楽しそうにスキーを滑らせていました。

最後の15kmのスキーマラソンがスタートを切る頃には霧がかかり、参加者は幻想的な雰囲気の中で大滝区ならではの森林の合間を縫うコースを楽しまれたのではないのでしょうか。

雨で滑りが良くなったのか、好タイムだったようです。



悪天候の中でのスタート!



軽快な走りをみせる参加者